

春季体育大会、今年も大活躍！

舟山

春季体育大会結果

○団体の部
優勝

- 卓球男子
- 卓球女子
- 剣道男子
- 剣道女子

発行者
幸田町立南部中学校
鈴木 一也
第125号

五月十一日に南部中、幸田中、北部中、町弓道場で幸田町中学校春季体育大会が行われました。九日の激励会では、それぞれのチームが、目標や意気込みを全校の前で披露し気持ちを高めました。

大会当日は好天に恵まれ、全種目行うことができました。選手たちは、激励会で決意表明をした通り、最後まで諦めず試合に臨むことができました。その結果、全体として例年以上に好成績を収めました。思うように力が発揮できた部もそうでなかった部もあるかと思いますが、今回の経験を今後の学校生活や夏の大会に生かして行ってほしいです。

熱い声援を送ってくださった皆様、ありがとうございました。

夏に向けて

三年 稲吉 葉音

五月十一日、私たち三年生にとって最後の町の大会、春季大会がありました。私はバレーボール部でキャプテンをしています。私たちは新人戦で悔しい思いをしたのを忘れず、今回の大会に挑みました。一人一人が自分の役割を果たし、がんばりました。しかし、相手の雰囲気にもまわってしまい、大会は終わりました。私は今回の大会で、チームとしての課題もありましたが、キャプテンとしての自覚についても考えました。重い雰囲気だからこそキャプテンである私が、チームのみんなに声をかけたりしてよい雰囲気に変えていかなければならないと思いました。

夏の大会で私たち三年生は、活動の最後を迎えます。後悔しないように、あと数か月の練習を大切にして、笑顔で部活動を終わりたいです。

○個人の部

優勝

第二位

- 卓球女子 小塚 光桜
- 卓球女子(低学年) 光桜
- 卓球女子(低学年) グエンバオチュウ
- 卓球女子(高学年) 山崎 菜生
- 卓球女子 高橋 叶慎
- 卓球男子(低学年) 亀澤 侑志
- 卓球男子(高学年) 内藤 大晴
- 卓球女子(高学年) 並木亜由菜
- 卓球男子(高学年) 吉山 相佑



春季大会(バレーボール)の様子

部活動への思い

一年

松下 竜誠

私は今剣道部に入学したいと思っています。きっかけは、私が小学生の時に、剣道部に入っていた兄の話聞いたことです。兄の話から、とても楽しそうで、全方でやっていると感じ、その時から剣道部に入部しようと思っていました。

体験入部が始まり、もちろん第一希望で剣道部に行きました。初めて剣道をやってみると、思っていたよりも重たい竹刀を振ることや、すり足など、難しいことだらけでした。そのことも含めてやりがいを感じられました。そして、もっとやってみたいと思いました。

私も先輩たちみたいに、全員で力を合わせて、剣道を楽しみ、練習に励み強くなりたいです。そして、大きな声を誰よりも出して、相手を圧倒させられるような試合ができるようになるために、仮入部から全力でがんばっていききたいです。



体験入部の様子(剣道部)

生徒会として今年の抱負

三年 牧 大悟

今年度の生徒会スローガンは「絆紡(きぼう)」です。このスローガンには、学年を越えたつながりを強め、一人一人が充実した学校生活を送られるようにしたい、学校内だけでなく、地域とのつながりも大切にしたい、という願いが込められています。また先輩がたから受け継いできたソランや「南風」などの伝統を一人一人が全力でやりぬき、よりよいものにして、次世代に引き継いでいきたいです。

学年だけでなく、学校全体がつながり、たくさんのかたがたに愛される学校を創り上げていきたいです。そのために、一人一人が当たり前のレベルを高め、南中生全員で素晴らしい学校にできるようにしたいです。



全校スローガン「絆紡」

学校行事の中がら

学年が一つになった瞬間

一年 伊藤 愛華

初めての学年行事「オリエンテーション」では、豊坂小出身の子たちと仲よくなることを楽しみにしていました。とくに楽しみにしていたのは、南中の伝統にもなっている『南中ソーラン』です。深溝小では、三年と六年のときにソーランを踊りました。みんなが真剣に取り組んできたので、振りに込められた意味や工夫するところを豊坂小出身の子たちにも伝えたいという思いで取り組みました。

初めは戸惑っていた友達も一緒に踊る楽しさを感じてくれたのか、だんだん笑顔になりました。初めて全員で踊ったとき、最初の『どっこいしょ！』で学年全員の声が体育館中に響き渡りました。その声にとっても圧倒され、踊り終わりには、達成感を得ました。私たちのソーランは始まったばかりです。この三年間、大好きな八十九人の仲間と『魂』を込めてソーランを踊っていきたいです。



南中ソーランに取り組む1年生

伝統を引き継ぐ

一年 稲吉 遼馬

私たちは新入生歓迎会で南中ソーランを披露しました。二年生になり、ソーランをなんのためにやるのかをもう一度みんなでも考えました。そこで、南部中の伝統を自分たちも受け継ぎ、さらに後輩たちへ引き継ぐということで見解がまとまりました。その後は、声やキレなどにもっとこだわりたい、必死さを伝えるということ練習の質を上げて取り組みました。その結果、去年よりもレベルの上だったソーランにすることができました。

そして、迎えた本番。全力で踊っているみんなの声や姿がありました。終わった後、肩で息をするみんなの姿には達成感がありました。しかし、伝統を引き継いでいくためには三年生に自分たちのソーランを認めてもらわないといけません。これから「挑進星」学年全員でがんばっていきます。



2年生の南中ソーラン

先輩としての自覚

二年 石川 凜

私がこの一年でがんばりたいことは挨拶です。一年生の時はやらないといけないとわかっているけども恥ずかしい気持ちがあり、大きな声でできていませんでした。でも、部活動の体験に来た一年生が、「先輩、こんにちは。」と大きな声で言ってくれました。うれしい気持ちの反面、情けない気持ちになりました。自分から積極的に挨拶をしてくれた姿に自分も負けていけないし、先輩として姿で引っ張っていこうという自覚が芽生えました。

今はまだ自信をもってできてはいないけれど、一年かけて絶対にできるようにしようと思います。人として、先輩として何事も本気で取り組めるようにしていきます。将来尊敬される三年生になるために一日一日を挑戦し続けていこうと思います。



1年生に優しく指導する先輩

風への想い

三年 伊藤 那歩

私は昨年度に引き続き、交流会で今年度も凧作りの講座に参加しています。昨年は、何もわからず不安でいっぱいだった私たちに、講師の先生が優しく丁寧に教えてくださったおかげで、凧を作ることができました。

しかし、凧揚げ大会本番では、凧が吹かなかったこともあり、凧が高くまで揚がらず、悔しい思いをしました。今年こそは高く南中凧を揚げられるよう、講師の先生がたのお話をよく聞いて、一つ一つの作業に丁寧に取り組み、同じ講座の仲間と協力して凧を作りたいたいです。私たちのために、丁寧に教えてくださる講師のかたがたへの感謝の気持ちを忘れずに、残り三回の交流会を皆と楽しみたいです。



交流会（凧作り）の様子